

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	NX武道館	階数	地上2F
建設地	東京都板橋区	構造	RC造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	195 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,270 時間/年(想定値)
建物用途	集会所	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2024年9月 予定	評価の実施日	2024年9月10日
敷地面積	1,771 m ²	作成者	株式会社イズミコンサルティング
建築面積	1,121 m ²	確認日	2024年9月10日
延床面積	2,387 m ²	確認者	三井住友建設株式会社



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	54%
③上記+②以外の	54%
④上記+	54%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.4

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.9

3 設計上の配慮事項		その他
総合 NXグループの剣道部、柔道部、相撲部の部員が日々練習に励み、各競技の技を磨くことを目的とする施設である。SDGsの取り組みとして、国産ヒノキを中心に木材を積極的に利用している。さらに、太陽光パネルを活用したエネルギー利用により、CO ₂ の排出量を削減し、カーボンニュートラルへの貢献を目指している。		-
Q1 室内環境 F☆☆☆☆建材を全面的に採用し空気質環境にも十分配慮している。	Q2 サービス性能 補修必要間隔の長い内装材、配管材を採用するなど建物の耐用性・信頼性に配慮している。	Q3 室外環境 (敷地内) 外壁を後退させ、歩行者への圧迫感を軽減させている。緑を感じられる潤いのある自主管理歩道を計画している。
LR1 エネルギー 太陽光発電システムを採用し、自然エネルギーの有効活用に配慮している。高効率なLED照明器具等を採用し、設備システムの高効率化にも配慮している。	LR2 資源・マテリアル エコマーク及びグリーン調達品などリサイクル材を使用し、資源の再利用に配慮している。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率を参照値より低減させるなど、地球温暖化への配慮をしている。附置義務を見たす駐車台数を確保、交差点を避けた位置に出入口を設置等により、敷地外への交通負荷抑制に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版
NX武道館

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3)

スコアシート		竣工段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									3.0
Q1 室内環境					0.40		-		2.4
1 音環境				2.6	0.15		-		2.6
1.1 室内騒音レベル		-		1.0	0.40		-		
1.2 遮音				5.0	0.40		-		
1 開口部遮音性能		遮音性能等級T-2の建具を採用		5.0	1.00		-		
2 界壁遮音性能		-			-		-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-			-		-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-			-		-		
1.3 吸音		-		1.0	0.20		-		
2 温熱環境				1.6	0.35		-		1.6
2.1 室温制御				2.2	0.50		-		
1 室温		-		3.0	0.38		-		
2 外皮性能		-		3.0	0.25		-		
3 ゾーン別制御性		-		1.0	0.38		-		
2.2 湿度制御		-		1.0	0.20		-		
2.3 空調方式		-		1.0	0.30		-		
3 光・視環境				3.0	0.25		-		3.0
3.1 屋光利用					-		-		
1 屋光率		-			-		-		
2 方位別開口		-			-		-		
3 屋光利用設備		-			-		-		
3.2 グレア対策					-		-		
1 屋光制御		-			-		-		
3.3 照度		-			-		-		
3.4 照明制御		-		3.0	1.00		-		
4 空気質環境				2.8	0.25		-		2.8
4.1 発生源対策				4.0	0.50		-		
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆建材を全面的に使用		4.0	1.00		-		
4.2 換気				2.0	0.30		-		
1 換気量		-		3.0	0.50		-		
2 自然換気性能		-			-		-		
3 取り入れ外気への配慮		-		1.0	0.50		-		
4.3 運用管理				1.0	0.20		-		
1 CO ₂ の監視		-			-		-		
2 喫煙の制御		-		1.0	1.00		-		
Q2 サービス性能					0.30		-		3.5
1 機能性				3.9	0.40		-		3.9
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40		-		
1 広さ・収納性		-			-		-		
2 高度情報通信設備対応		-			-		-		
3 バリアフリー計画		-		3.0	1.00		-		
1.2 心理性・快適性				5.0	0.30		-		
1 広さ感・景観		-			-		-		
2 リフレッシュスペース		-			-		-		
3 内装計画		建築物全体のコンセプト・機能が明確化されていて、反映するための取り組みが具体的に示されている		5.0	1.00		-		
1.3 維持管理				4.0	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計		内壁・床に防汚性建材を採用、風除室扉どうしが同時感知しない様十分な距離を確保、外部金属部材は亜鉛メッキ処理等		4.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保		清掃用具保管庫・専用流しなど、維持管理に適切な設備を設置、専用部以外の諸設備は共用部での維持管理が可能等		4.0	0.50		-		
2 耐用性・信頼性				3.1	0.30		-		3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		-		3.0	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能		-		3.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数		-		3.0	0.20		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		-		2.0	0.20		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		更新必要間隔の長い仕上材を採用		5.0	0.10		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-		3.0	0.10		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水管:VLP(B)、汚水排水管:VP(B)、給湯管:SUS(C)、主要な用途上位3種の、2種以上にC以上を採用		4.0	0.20		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		-		3.0	0.20		-		
2.4 信頼性				3.4	0.20		-		
1 空調・換気設備		-		3.0	0.20		-		
2 給排水・衛生設備		節水型器具を設置器具数の過半以上に採用、可能な限り配管の系統を区分し災害時使用不能部分を低減、受水槽に緊急水栓を設置		4.0	0.20		-		
3 電気設備		-		3.0	0.20		-		
4 機械・配管支持方法		耐震クラスAで計画		4.0	0.20		-		
5 通信・情報設備		-		3.0	0.20		-		
3 対応性・更新性				3.4	0.30		-		3.4
3.1 空間のゆとり				4.0	0.30		-		

	1	階高のゆとり	-	-	-	-	-
	2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.1以上0.3未満	4.0	1.00	-	-
	3.2 荷重のゆとり		-	3.0	0.30	-	-
	3.3 設備の更新性		-	3.4	0.40	-	-
	1	空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-
	2	給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-
	3	電気配線の更新性	ケーブルラック、コロガシ配線、配管配線により構造部材・仕上げ材を痛めることなく更新・修繕が可能	5.0	0.10	-	-
	4	通信配線の更新性	ケーブルラック、コロガシ配線、配管配線により構造部材・仕上げ材を痛めることなく更新・修繕が可能	5.0	0.10	-	-
	5	設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-
	6	バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-
1 生物環境の保全と創出				3.0	0.30	-	-
2 まちなみ・景観への配慮				まちなみへの調和、植栽による良好な景観を形成、視点場からの良好な景観を形成		4.0	0.40
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30	-	-
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上		-	3.0	0.50	-	-
	3.2 敷地内温熱環境の向上		-	3.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI=0.69		5.0	0.20
2 自然エネルギー利用				-	3.0	0.10	-
3 設備システムの高効率化				BEI=0.41		4.3	0.50
	集合住宅以外の評価		-	4.3	1.00	-	-
	集合住宅の評価		-	-	-	-	-
4 効率的運用				3.5	0.20	-	-
	集合住宅以外の評価		-	3.5	1.00	-	-
	4.1	モニタリング	-	3.0	0.50	-	-
	4.2	運用管理体制	運用管理の組織・体制・管理方針を計画、責任者を指名、目標値を提出	4.0	0.50	-	-
	集合住宅の評価		-	-	-	-	-
	4.1	モニタリング	-	-	-	-	-
	4.2	運用管理体制	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-
1 水資源保護				3.4	0.20	-	-
	1.1 節水		主要水栓の概ね過半に節水器具を採用、節水型便器を採用	4.0	0.40	-	-
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		-	3.0	0.60	-	-
	1	雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-
	2	雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-
2 非再生性資源の使用量削減				4.0	0.60	-	-
	2.1 材料使用量の削減		Hybridニーディング工法、スーパーEデッキ、F.T.Pile構法、PC鋼材より線	4.0	0.10	-	-
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		-	3.0	0.20	-	-
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		タイルカーペット・床仕上材、ポリスチレンフォーム・床下断熱材、再生クラッシュラン・路盤材	5.0	0.20	-	-
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		持続可能な森林から産出された木材の使用比率が10%以上50%未満	4.0	0.10	-	-
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		軽量鉄骨下地により躯体と仕上材が容易に分別・取り外し可能	5.0	0.20	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.3	0.20	-	-
	3.1 有害物質を含まない材料の使用		-	3.0	0.30	-	-
	3.2 フロン・ハロンの回避		-	3.5	0.70	-	-
	1	消火剤	-	-	-	-	-
	2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0かつGWP=10以下のノンフロン断熱材を採用	4.0	0.50	-	-
	3	冷媒	-	3.0	0.50	-	-
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-
1 地球温暖化への配慮				ライフサイクルCO2排出率を参照値より低減		4.8	0.33
2 地域環境への配慮				3.8	0.33	-	-
	2.1 大気汚染防止		燃焼機器を使用していない	5.0	0.25	-	-
	2.2 温熱環境悪化の改善		-	4.0	0.50	-	-
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		-	2.5	0.25	-	-
	1	雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-
	2	汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-
	3	交通負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-
	4	廃棄物処理負荷抑制	-	1.0	0.25	-	-
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33	-	-
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		-	3.0	0.40	-	-
	1	騒音	-	3.0	1.00	-	-
	2	振動	-	-	-	-	-
	3	悪臭	-	-	-	-	-
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		-	3.0	0.40	-	-
	1	風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-
	2	砂塵の抑制	-	-	-	-	-
	3	日照障害の抑制	-	3.0	0.30	-	-
	3.3 光害の抑制		-	4.4	0.20	-	-
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「光害対策ガイドライン」チェックリストの過半を満たす、広告物照明を行っていない	5.0	0.70	-	-
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版

NX武道館

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	4.0	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	7.0	-	○	○	-	-	○	○	-	○	○	○	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	7.0	-	-	○	○	-	○	○	○	○	-	-	-	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	3.0	3.0	○	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	9.0	-	-	-	3.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	4.0	-	2.0	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	3.0	-	-	-	1.0	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	7.0	-	-	-	2.0	3.0	-	-	-	-	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	4.0	-	-	-	4.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	13.0	-	1.0	-	2.0	3.0	3.0	1.0	-	2.0	1.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0	-	-	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0	-	2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	-	窓の日射熱取得率(η)	-
U値(W/m2K)	窓システム	屋根	外壁
住戸部分	窓システムU値	外皮UA値	η AC
			η AH

3.1.1 昼光率

昼光率 0.0%

4.2.2 自然換気性能

自然換気有効開口面積率 0.0%

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース .0m²/人 病床 .0m²/床 シングル .0m² ツイン .0m²

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量 0.0 VA/m²

1.2.1 広さ感・景観

天井高 2.5 m

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 0.0%

2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数 0 年

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔 0 年

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

3.1.1 階高のゆとり

階高 0 m

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率 0.0%

3.2 荷重のゆとり

床荷重 - N/m²

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数 73% 建物緑化指数 4%

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率 40% 水平投影面積率 24% 地表面対策面積率 37% 舗装面積率 30%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI_m 0.69 断熱等性能等級 対象外 相当

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年^m 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0%

通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%

太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW

3 設備システムの高効率化

非住宅部分

BEI/BEI_m 再エネ有 0.41 無 0.41 オフサイト再エネ有 - -

集合住宅の評価

一次エネ削減率 再エネ有 無 - -

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率 0.0%

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品目 - エコマーク商品 タイルカーペット、風呂・洗面・トイレの特定品目等 -

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率 0.0%

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比 50% 隣棟間隔指標Rw 0.77

地表面対策面積率 80.0% 屋根面対策面積率 4.9% 外壁面対策面積率 0.0%

見付面積Sb 477m² 卓越風向と直交する最大敷地幅Ws 53.36 m 基準高さHb 17.85 m

緑地 157m² 水面 m² 保水性対策面 m² 高反射対策面 200m² 再帰性反射対策面 m²